

# Glocal Tenri



6

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.13 No.6 June 2012

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
「メガ・チャーチ」の盛衰  
／深谷忠一 ..... 1
- ・ 天理教海外伝道の資料 (28)  
満州伝道関連史料⑩  
／深川治道 ..... 2
- ・ 天理教伝道史の諸相 (6)  
大阪の天理教  
／早田一郎 ..... 3
- ・ 「おふでさき」の有機的展開 (2)  
「おふでさき」を読むということ  
／深谷耕治 ..... 4
- ・ 「いのち」をつなぐ一生死の現象 (6)  
死をどうしたら受けとめられるのか④  
／堀内みどり ..... 5
- ・ 「襲のあわいに深く入り込んでいて…」  
をめぐって (3)  
襲のあわい——その火口③  
／松田健三郎 ..... 6
- ・ 世界平和のための宗教対話 (32)  
新枢機卿誕生とキリスト教の伸展状況  
／山口英雄 ..... 7
- ・ 現代世界に生きる「人間」と「宗教」(4)  
「意味」を求める存在としての人間  
／岡田正彦 ..... 8
- ・ ノーマライゼーションへの道程 (4)  
わが国の障害者施策  
／八木三郎 ..... 9
- ・ 平成 24 年度公開教学講座「信仰を生  
きる」:『逸話篇』に学ぶ (1)  
第 1 講: 7 「真心の御供」  
／深谷忠一 ..... 10
- ・ English Summary ..... 11
- ・ おやさと研究所ニュース ..... 12  
新刊案内/平成 24 年度公開教学講座のお知らせ

## 巻頭言

### 「メガ・チャーチ」の盛衰

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

現在、アメリカには、週末毎に各々 2 千人以上の会衆（最大で 3 万 5 千人）を集めているメガ・チャーチ (Megachurch) と呼ばれるプロテスタント系の教会が 1,200 カ所以上あります。(「Hartford Institute for Religion Research」)

そして、このメガ・チャーチ現象を現出した先駆者が、1950 年代半ばから活動を始めたロバート・H・シュラー牧師であり、その成功の証として羨望の的になっていたのが、1980 年に、デイズニーランドの近くのガーデングローブに建築されたクリスタル・カテドラル (Crystal Cathedral) でした。

この世界最大級のガラスの聖堂でのスペクタクル・ショーを背景にしたシュラー師の説教は、日曜日ごとにテレビの全米ネットで放映され、世界で最も多くの人が見ている宗教番組「Hour of power」(最盛期には毎週 200 万人が聴視)として有名になり、この教会へ定期的に献金する人が 1 万人を超えるほどになりました。

そして、シュラー師は、10 年の移管期間を経た 2006 年に、主任牧師の立場を息子のロバート・A・シュラーに譲ったのですが、その直後からクリスタル・カテドラルへの入場者数やテレビ視聴者からの献金が激減してしまいました。そこで、1 年も経たない間に、父親が再登壇して、組織を元の通りに建てなおそうとしたのですが、彼の引退後に進んだネット社会での人々のテレビ離れや、折からの経済不況による人々の意識の変化、「豪華絢爛よりカジュアル」、「マス集会での高揚感より個別的グループでの絆」などが、それを失敗に終わらせたのです。

2010 年には、シュラー師の教会は数千万ドルの債務不履行に陥り、翌 2011 年には、大聖堂と 38,000 坪の敷地が、5,750 万ドルでカトリック教会オレンジ郡教区の手に移ることになったのです。

それ以後、この老舗の崩壊に学んだ他の多くのメガ・チャーチが、教会の路線・経営方針の変更を画策しはじめました。

大聖堂建築の代わりに、廃業した駐車場つきの工場やショッピング・モールなどを改造して、飾り気のない会堂を作る。大人数での華やかな宗教ショーをやめて、ジーンズをはい

た牧師とピアニストや少人数編成のバンドによるアットホームな雰囲気のみさをやる。

また、費用が嵩むマスコミを使う代わりに、ブログやフェイスブック等の SNS を利用する。教会内には、託児所や子供向けのプログラム、また、教育・就職・結婚などの悩みに個別に対応する相談室を開設する。さらには、フィットネスクラブやマッサージ室など、身体のケアをする施設も用意する。また中には、みやげもの店、書店、レストランや食料品のマーケットまで教会に併設して、日常に必要なものが全て、ワン・ストップで揃うようにしたところもあります。

元来、メガ・チャーチが大勢の会衆を集めたのは、創設者のカリスマ牧師たちが、各々に抜群の経営センスをもっていて、時代の要請に的確に対応してきたからです。しかし、会衆の要求が多様化した現在では、司祭一人では全てのことに対応できなくなっています。ですから、多くのメガ・チャーチが、専門のコンサルタントに相談をして、大スター主演の大劇場/ブランドショップ型の教会から、主役が複数のシネコン/スーパーマーケット型の教会への転換を図っているのです。

このように、伝統に拘泥しない新しいメガ・チャーチは、老舗の崩壊を横目に見つつ、自らは融通無碍に時代の要請に適応しようとしているのですが、部外者の中にはその姿を見て、「これはもはや教会ではない、これは企業であり、そこに神はいない」などと批判する人もあります。しかし、ごく最近の調査でも、メガ・チャーチに集う人の 98% が、「自分の教会は霊的な活力を維持しており、自分たちも強い信仰を持っている」と答えています。また、日曜日ごとに教会に集まる人数も、全体で年平均 8% の伸び率を示していて、メガ・チャーチが多くの人たちの心の支えになっているのは事実なのです。(「Hartford Institute for Religion Research」)

新奇も時代を経れば伝統になる。その伝統を守るのか、さらなる新奇を求めるのか。メガ・チャーチの盛衰を他山の石として、「里の仙人」になれと教えられる私たちこそが、多くの人が楽しんで集まる教会づくりをする努力を、惜しまぬようにしたいものだと思う次第です。